

懐かしい未来新聞

発行：甲賀市
地域共生社会推進課
連絡先 内線1356
0748-69-2155

★本号の紙面 災害派遣特集
★保健師等チーム避難所支援
★災害ボランティアセンター
★DWAAT
★被災建築物応急危険度判定

避難所支援から学ぶ 行政の受援力・連帯



派遣初日は、長崎市と一緒でした。

※懐かしい未来とは、これまで古い価値観として捨ててきたものの中に、実はこれからの暮らしに必要な大切なものがあつたのではないかと気がつきから使われはじめた言葉です。

輪島市の状況



2006年 輪島市と高全町 合併
輪島市の人口 約25,000人 高齢化率 46% (2020年)

能登北部保健所管内
：輪島市、珠洲市



段ボールベット
が置かれた居室



カーテンで仕切
られた体育館

滋賀県DHEAT	滋賀県保健師等チーム
業務内容 対人保健分野におけるマネジメント業務 関係機関との連絡調整 被災地の健康課題のアセスメント 被災地市町村の保健活動の評価、支援 保健活動計画の立案 派遣保健師の受け入れ調整	被災者の健康チェック・健康相談 避難所の衛生対策 現場での、プレイヤー業務
期間場所 2024年1月5日～1月24日能登北部保健所 1月25日～2月1日 輪島市 1班が7日間で、4つの班でリレーし支援	金沢市内の8つの避難所のうち1つの避難所 2024年2月4日～3月31日(予定) 1班が6日間で11の班でリレーし支援
構成 メンバー 医師1人、保健師1～2人、ロジ1人	保健師2人(保健所保健師、市町保健師)ロジ1人

長期化する避難所生活 被災者支援のありかたとは

滋賀県は、発災直後1月4日から石川県能登町への支援を稼働し、2月5日からは、金沢市内の輪島市南志見地区から避難されている15次避難所へ保健師等チーム(3人体制)の支援活動をしてスタートしました。甲賀市からも、滋賀県第6班の保健師等チームとして、2月29日から3月5日まで、県職員とともに支援に参加しました。災害は、他人事ではありません。短い支援活動でしたが我が市の避難所運営や健康危機管理に活かすため、肌で感じたことを報告します。

1.1 能登激震

1.1 能登激震 行政職員がメイン 15次避難所運営は

金沢市では、1月9日から8つの15次避難所を開設されており、市の正規職員がローテーションで、避難所運営や食料提供などをされています。

避難所運営は、福祉政策部局が主管で、避難所ごとに運営マニュアルが作られていて、24時間体制で、全職員が交代で夜勤をされていました。滋賀県チームと一緒に、高知県チームが健康管理として関わり、室内消毒・燃料補給・換気等の環境整備などは宮城県仙台市の4名の職員が従事していました。

担当した額谷体育館と鶴寿園(福祉センター)の避難所は、体育館に70名、鶴寿園に18名と開設当初からは半分ぐらいに減っていました。

なかでも、滋賀県保健師チームは、複数の自治体の医療専門職の連絡調整、統括的な役割と個々の健康相談や健康チェック、避難所の感染症対策のプレイヤーとしての役割がありました。

また、今後のことや輪島市の南志見地区の被害状況を聞いていくと、輪島は第二次世界大戦の空襲が少なかったこと高齢化のために古い家屋が多いことから、家屋の全壊、半壊、が大半を占める話を聞きました。

70歳代の男性は、「精魂込めてつくり育てた田畑や家屋が、あつていつまでもここに居た、もうカネもないから輪島に



健康管理は、傾聴することを中心しました

避難所の悩みは「自由と安心」の両方

避難所生活も2か月を迎えている被災者の生活は、カーテンレールや衝立だけの仕切りの狭い家族スペース、入浴や外出も決められていて、入浴や外出も申請や予約をしなければならぬ制約、そしてこれまではやってきた田畑や家事などの「やるべきこと」が「やることがない」こと、いっしょの辛さであることが語られました。

また、今後のことや輪島市の南志見地区の被害状況を聞いていくと、輪島は第二次世界大戦の空襲が少なかったこと高齢化のために古い家屋が多いことから、家屋の全壊、半壊、が大半を占める話を聞きました。

70歳代の男性は、「精魂込めてつくり育てた田畑や家屋が、あつていつまでもここに居た、もうカネもないから輪島に

戻ることを諦めたが、やっぱりあきらめられない」と損傷に対して落胆されたり、60歳代女性も「この先どうなっていくのか考えると眠れない」と不安やストレスを吐露されていました。

うつやストレスが長引くと、脳血管疾患や心疾患、感染症にかかりやすくなり、災害関連死のリスクが高くなります。

専門職が定期的に訪しし健康管理を行い、心身の不調を未然に防いだり早期発見、早期医療へのつなぎ役として、避難所スタッフの連携が重要となります。また、避難所生活を送る中で顔見知りのみなが声を掛け合いながら互いを気遣われる様子は、「能登は優しい」の言葉通りでした。

「二次健康被害を最少にすること」

換気時間提示
本日の予定掲示
運動不足解消・体操の時間
避難所での工夫あれこれ
編み物教室
長岡さんから炊き出し
換気消毒の環境整備
朝夕のミーティング
日替わりでの演芸
ペットの同伴避難
企業から運動靴支給
毎日の訪室